

平成26年度

今治市PTA連合会研修大会が開かれる

平成二十七年二月一日（日）今治市連合会研修大会（第九回）は、波方公民館で開催されました。初めに今治市PTA連合会・河上貴之会長が挨拶し、来賓の今治市教育委員会教育長・高橋実樹様、愛媛県PTA連合会会長・村上一郎様からご祝辞を頂きました。

それから、日P会長表彰や県教育長・県P連会長の連名表彰、県P連会長感謝状の表彰伝達が行われ、平成二十六年度PTA功労者教育長・市P連会長連名表彰受賞者の表彰がありました。受賞者の皆様、おめで



輝くひとみ

第18号

平成27年3月15日発行
今治市PTA連合会
ホームページアドレス
<http://www.imabaricity-pta.jp>

ようございます。

そしてラジオDJ由本シユウ先生の講演会「すべては、子どもたちのために」が開催されました。大阪府門真市出身でPTA会長のレモンさんとして五年間務められた経歴があります。PTAや子育てに関する書籍を二冊出版、印税はすべてレモンさん基金として子どもたちのために寄付されており、会場が暗くなるとスクリーンにシユウさんの活動をダイジェストにした映像が曲と共に流れた後、明るくなって客席の後ろからレモンさんの被り物をしたシユウさんが元気よく登場しそのままマイクでしゃべりながら壇上へ。「WE are シンセキ！」をキャッチフレーズとして人類はみな親戚であると豪語し、軽快な口調の大阪弁で会場に爆笑の渦を作っていました。今回、シユウさんがお伝えしたい事は、①WE are シンセキ、②メモを取る、③感性の扉を開く、の三つだと言います。③の感性の扉は、あなたの心の引出しを開いて欲しいとの事でした。その扉（引出し）を開くために必

要な三つの要素が、A. 何が起こっているのか？、B. 今後？（どこにむかっているのか？）、C. 子育てはソムリエ（どう育てるのか？）です。A. は現在、コミュニケーション崩壊の時代であり、孤独や孤立の時代ですが、ピンチをチャンスに変えられる時代でもあります。B. 今後は、I. コミュニケーション五箇条 II. 昭和のICチップ III. ワークショッ

プ、を理解する必要性があるそうです。コミュニケーション五箇条とは、①心のパスワードを入れる ②理解の形を知る ↓ I. 聞く 2. 確認 3. 同調 4. 話す ③心は心を引寄せ（愛は愛、憎悪は憎悪） ④心の鍋（愛の炎を注げ） ⑤北風と太陽（説得より納得）の五つで、これを意識する事でコミュニケーションがスムーズに出来るようになります。興味深かったのが、シユウさんが考える「昭和のICチップ」を心を持つ世代のお話で、これが親子世代の壁となっていると説きます。例えば、すぐ感情的になる、人の話を聞かない、自分が正しく人は間違っている、男尊女卑をする、などの十項目に当てはまる昭和生まれの人がそうです。その昭和のICチップを持つ世代の親が、今の子どもたちとコミュニケーションするためのワークショップが、①We are シンセキ ②oh！何③ピンチはチャンス ④語尾を可愛くする事で喧嘩を防ぐ（例：ぼよよん） ⑤とと思うけど君はどう思う？と語尾につける。の五つの実践です。C. の子育てはソムリエの意味は、五つあつて「M E N U」アドバイス「テイステイキング」決める「責任」とあり、すべては子どもに気づかせる事が大事とおっしゃっていました。怒ったり怒鳴ったりする必要はないのだそうです。そして最後に、PTAの心得を五つ教えて頂きました。①情報（が入る） ②会話（コミュニケーション） ③友人（が出来る） ④感動⑤愛 です。最後は和やかなBGMと共に、シユウさんの最後のメッセージが「We are シンセキ」の精神で子どもたちと接すれば、絶対に気づいてくれるという事、ひいてはそれが人類の争いを無くして世界平和へと繋がるという事を教えて頂きました。二時間の講演時間の予定が四十分も上回る熱の入った講演会でした。シユウさんは講演会が終わった後も口ビーで一人づつ握手や挨拶をしながらサインをされる

など、講演に来てくれた皆さん一人一人の出会いを大切にされている方なのだ、と思えました。

山本シユウ先生、とても楽しく、とてもパワフルで、とても勉強になる、素晴らしい講演をして頂き、本当にありがとうございます。

公益社団法人日本PTA全国協議会 表彰式典開催される



十一月十九日（水）東京の銀杏並木が色づく秋晴れの中、ホテルニューオータニにて公益社団法人日本PTA全国協議会主催の表彰式が行われました。

日頃PTA活動に尽力され、その功績が顕著である団体に対して優良PTA文部科学大臣表彰が贈られ、団体と個人に対して公益社団法人日本PTA全国協議会会長表彰が、また全国小・中学校PTA広報紙コンクール表彰が行われ、北は北海道から南は沖縄まで全国から集結したPTA会員で、大きな会場は埋め

尽くされました。表彰式



の後、祝賀会が催され、「すべては子どもたちのために」という共通の思いで繋がったPTA会員が、それまでの活動や新たな取り組み等思い思いの会話に花を咲かせていました。

今回の授賞式で、学校の先生方や日頃支えあい共に活動するPTA仲間、PTA活動に対し、理解を示してくれる家族に改めて感謝することができました。

そして、今後のPTA活動においてさらに良い貢献ができるよう意欲を高めることができるなど大変貴重で意義深いものになりました。

今治では、今治市波方小学校PTAが公益社団法人日本PTA協議会会長表彰（団体）を、同表彰（個人）を菊川有里子（愛媛県PTA連合会副会長）が受賞しました。

小学校PTAが公益社団法人日本PTA協議会会長表彰（団体）を、同表彰（個人）を菊川有里子（愛媛県PTA連合会副会長）が受賞しました。

第四十三回 四国ブロック PTA 研究 愛媛大会

平成二十六年十一月十六日(日)、愛媛県武道館にて、第四十三回四国ブロックPTA研究大会が「愛の手で未来を築くPTA」の大会スローガンのもと開催され、四国各地から多くのPTA会員が一同に会しました。

基調講演では、「夢をあきらめない生き方」アースマラソンの裏側を全て話します」と題し、タレント・間寛平先生の貴重なお話を聞きました。世界一周アースマラソンで様々な苦労や病気を乗り越えて諦めずに完走したお話に感動と、笑いと、諦めない強さを感じました。そして、質疑応答でPTAさんの質問に、鋭い突っ込みで答え会場は爆

笑の渦に巻かれていました。間寛平先生を囲んで行われた講演は、今大会初の試みとのことでしたが、大変新鮮で有意義な時間となりました。

またアトラクションでは、霊峰石鎚山や、西条祭りをイメージしたオリジナル曲を中心に、太鼓・篠笛・鳴り物などで表現される「道前太鼓L.A.B.A.N.T.A(どうぜんだいこら・ばんた)」の演奏と日本ユネスコの百年後に残す「プロジェクト未来遺産2014」にノミネートされている「創作歌舞伎舞踊 伊予八百八狸」が披露され、愛媛県の文化に触れることもでき感謝感激な大会となりました。



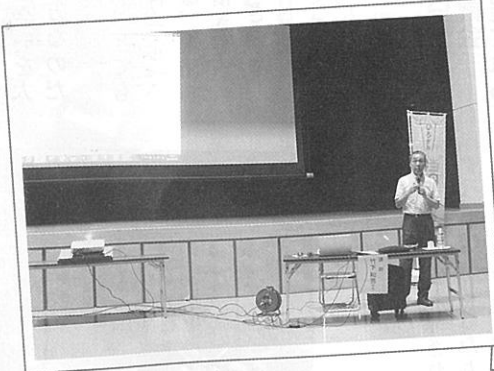
「弁当の日」講演会

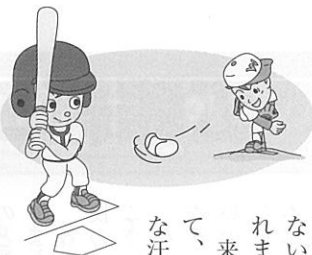
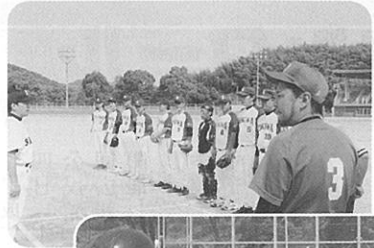
平成二十六年九月六日(土)、今治市波方公民館にて第四回いまばりPTA大学が「弁当の日」応援プロジェクトの助成を受けて開催されました。

子どもが自作弁当を学校に持参する「弁当の日」を提唱した元小中学校校長、竹下和男先生が「弁当の日」が生み出す「くらしの時間」をテーマに食事と料理の大切さを講演されました。

「弁当の日」は二〇〇一年、竹下先生が校長先生をされていた香川県の小学校で始め、買い出しから調理、片付けまで子どもだけでします。竹下先生は親から子ども時代に料理を教えてもらわないから今の若者は食生活が乱れていると指摘されていました。「子どもの時に料理を身に付ければ、大人になってもいつでもできる」とおっしゃって、教え子が大学生になって自炊しているエピソードや、日本テレビの二十四時間ドラマ「はなちゃんのみそ汁」のもとになっ

た映像をスライドで紹介してくださいました。自分のためだけに生きるという風潮に触れ「子育てを嫌がる親が増え、親からの愛情を受けないまま育つ子も増えている。親は子どもの将来のことを考えて行動すべきだ。子どもは褒められることを欲している。愛された子どもは素敵な大人になる」と話されました。約百五十人の参加者の中には講演後さっそく子どもが自ら料理を作るといつて帰りに親子で買い物をして、帰宅後、春巻を作ってくれたと笑顔で話してくださいましたお母さんがいました。





球技大会



ファーストピッチ

平成二十六年七月二十日、今治市PTA球技大会ソフトボールが、波方運動公園野球場と多目的広場で開催されました。

今回は、七月に入ってから大会となりまして、少し涼しい午前中にプレイボール。

お父さん方は日ごろの練習の成果を、挙って発揮しました。

さらに、午後になると、各チームの熱気と夏の日差しも手伝い、最大限にヒートアップした？展開となりました。

試合後の一杯も、例年ない最高の味だったと思われまふ。

来年も地域一団となつて、お父さん達の、爽やかな汗を？期待しています。



スローピッチ

平成二十六年七月六日(日)美須賀小学校運動場にて、ソフトボールスローピッチが開催されました。

参加校2校(今治小学校・美須賀小学校)と若干寂しい気もしますが、「閉校記念市P親睦ソフトボール大会」と銘打って、両チーム最後の大会に楽しく試合を行っていました。小学校の運動場が広くないため、独自のルールがあり「校舎に当たるとホームラン・・・」と子供の時、空き地で野球をした頃を思い出しました。パワーバッターが打席に立つとボールは勢いよく校舎の壁へと吸い込まれていき、「ガラスが割れないか」と、冷や冷やしながら観戦していました。

来年度は、スローピッチの参加校が出てくるのか不安ですが、楽しく試合・観戦でき運動に自信の無い私でも出てみたいなあと思う緩いスローピッチ、これからも開催されることを願います。



チーム	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
今治	3	0	4	4	2	2	0			
美須賀	1	1	0	3	2	1	5			



情報交換会

平成二十六年十一月三十日(日)、平成二十六年度第二回今治市PTA連合会情報交換会が波方公民館で行われ、各校のPTA代表者が集まり、各校のPTA活動における様々な問題について熱い情報交換が行われました。

今回の情報交換会は六月に開催した「いまばりPTA大学 リーダー研修会」でグループワークを効率に進める方法として、次のような方法で行われました。まず、五人から六人のチームをつくり、リーダー、タイムキーパー、記録する人、発表する人、などを決めました。このように役割を決めて行くと一人一人の意見がでて、熱い議論ができ、とてもよかったです。

講演は神戸大学森井先生による「情報社会の現状と今後の方向性」について講演が行われました。内容、ネット社会は「時間」と「空間」を超えた社会、そのネット社会で子供たちに生き方を学習させる。自分自身の意識を強く持つことで自分を守っていくのがネット社会である。Line、sns等は多様化することが問題であると指摘されているが、実はLineが問



題ではなく使う側に問題があり、Lineはとても素晴らしいものだと先生はおっしゃっていました。

最後に参加していただいた各校のPTAの方々には今後とも頑張ってくださいたいと思います。また、このような情報交換会はとも良いことだと思うので今後とも続けていただきたいと思ひます。ありがとうございます。

広報紙コンクール

平成二十七年二月十四日(土)、今治市桜井公民館において、第十回広報紙コンクールを開催しました。

小学校二十三校、中学校十二校の応募がありました。

各学校、特別審査員、市P連本部役員・広報公聴部員の採点を総合的に審査した結果、次のとおり受賞校が決まりました。

各賞を受賞された学校の皆様、おめでとうございます。

なお、最優秀賞、優秀賞の六校の広報紙は、県PTAのコンクールに応募します。表彰は、本年五月の市PTA総会にて行います。

受賞校の皆様おめでとうございます!

◆作品賞

☆最優秀賞

小学校の部

今治小学校

中学校の部

日吉中学校

☆優秀賞

小学校の部

常盤小学校
波止浜小学校

中学校の部

立花中学校
宮窪中学校

◆特別審査員賞

近見中学校

◆今治市PTA連合会長賞

富田小学校

◆ミニコミ賞

小学校の部 宮窪小学校

中学校の部 上浦中学校

※今治市PTA連合会のホームページにも掲載しておりますので、ご覧ください。
以下に、特別審査員の方々のご講評を掲載させていただきますので、今後の広報紙作りの参考にしてください。

http://www.imabarity-pta.jp/ 今治市PTA連合会 検索
名前:今治市PTA連合会 ユーザー名:imabari_pta

第10回 広報紙コンクール 特別審査員 講評

愛媛新聞社 今治支社編集部長

宮野 雄

今回三回目の審査。毎年レベル上がり、綺麗に組まれた広報紙ばかりで感心しています。

審査ポイントの一つ目、読みやすさ。全体の編集やレイアウトについては、各校差がない。すっきりと読みやすく編集されているとすれば、敢えて改善点を挙げるとすれば、写真詰め込みすぎの所があります。なるべく多くの子供を紹介したいという思いからだと思いますが、却って見にくくなっています。

次に、見出しやタイトルもものたりない所がありました。「運動会」「文化祭」「部活動紹介」といったタイトルは、見出しではなく単語になります。何を紹介しているかわかるけれど中身が詳しくわかりません。例えば「運動会、『生徒〇百人競技に汗』といった見出しなら、そのひと言で、何が書かれているか、どういことが行われたかが想像できます。そういった見出しが少ないように感じました。写真・記事・見出しのある実際の新聞。見出しを隠して読むと違和感があり、記事を丁寧に読まないと、何を書いているかわからないし、読みづらく感じられます。いい見出しをつけられ、更に中身が読みやすくわかりやすくなります。

二つ目のポイント記事の内容。特色のあるPTA活動にかかわる記事が載せられたか。例えば、学校内の活動を熱心に行っているなど紙面を熱心に感じました。地域(社会)との連携が見えてこない広報紙がありました。学校は地域の中枢施設なので、地域をあげた巻き込んだ活動に取り組まれ、記事にされると良いでしょう。

三つ目のポイント企画。積極的な企画ものが載せられたかについては、頑張っている所とそうでない所に二極化しました。今回「AEDの使い方」「自転車の安全な乗り方」「スマホを持たせる時の課題」などタイムリーで役に立ち参考になる企画モノもありましたが、全体として企画モノが少なかつたと思います。せっかくつくる広報紙に、もう一段の魅力と価値を持たせるため、企画モノに取り組んでください。

最後にまとめとして、基本的にこの広報紙を誰に向けてつくるかについて。保護者に向けてつくれた広報紙が多かつたと思います。それも悪くありません。目的や対象を絞ってつくるのは有りだと思います。しかし、その場合でも、見出し・レイアウト・記事の中身に磨きをかけて、楽しくわかりやすい紙面づくりを追求してください。

更に、地域と地域外の人を讀者とするならば、第三者の人に、楽しくわかりやすく伝えるというところに気を配ることになります。それから、写真の数を絞ってメリハリをつけ、長く書かなくて良いから、わかりやすく簡潔に記事を書き、かつ書いて、記事内容が一言で伝わる見出しを考え、魅力的な紙面づくりを取り組んでください。

今治教育委員会 教育長

高橋 実樹

本当に素晴らしい広報紙が出来ていましたので悩みに悩んで審査しました。読みやすさ、内容面、企画面、すべてにおいて、目に飛び込んできた所、内容に感心した所、個人的に印象に残った広報紙が数々ありました。(具体例は紙面の都合割愛させていただきます)

テーマの焦点化が良くされた記事、子供の夢に焦点化している記事、救急救命についてまとめられた記事から、活動されたことが伝わってきました。

手づくり感一杯で保護者の感想が良かった広報紙、一貫した編集姿勢が感じられた広報紙、家庭のこと、高校のこと、スマホのことなど、企画の良かった広報紙、素晴らしいと感じた広報紙がありました。本当にいい広報紙をつくっていただいています。心が温かくなりました。広報紙づくりに携わった皆さんありがとうございます。

尚、各校に広報紙づくりをサポート出来る教員を配していますので、広報紙づくりに際し相談活用され、PTA活動を知っていただき参加していただく広報紙づくりを進めてください。

今治教育推進協議会 副会長

榎原 章吾

どの学校も素晴らしい広報紙をつくられていました。紙面構成を大まかに見ていくと、写真を中心にまとめている所、子供達のコメントを中心にまとめている所、手法として座談会やアンケートをとり入れている所など、色々なパターンがあります。PTAが発行する広報紙。いかにしてPTAが地域の人の、何をどう発信していくかが求められ、それが大きな役目となります。

その中で、学校広報紙としての本来のあり方を考えた場合、保護者のお金で広報紙を発行してはいますが、それを与えられた権利ではなく、ただの義務としてとらえ、ただ新聞をつくる形にすれば良いと考えます。写真を並べ生徒のコメントを並べ紙面発行で終わりとありますが、それではPTAが発行する広報紙としては役立たないと思います。

こういう思いで座談会をして、PTAとしてどう感じた。アンケートとは別に見比べる資料をつけるなどして、意味合いを持ったメッセージを持たせた紙面づくりを期待しています。



平成27年4月に統合する学校をご紹介します。

統合する学校	新校名	場所
今治小学校 美須賀小学校 日吉小学校 吉海中学校 宮窪中学校 上浦中学校 大三島中学校	吹揚小学校	黄金町3丁目3番地
	大島中学校	吉海町幸新田250番地
	大三島中学校	上浦町井口5610番地

編集後記

肌ふれる風も早く感じられる季節となりました。「いまばりPTA大学」を含め、様々な1年間の活動もひと区切りです。2月に開催した、広報紙コンクールの講評では「地域との連携」の重要性を改めて感じました。4月には3校の統合もあります。家庭や学校だけでなく、地域とのつながりをより深めることがさらに大切になるでしょう。ぜひ、記事をご覧いただき、PTA活動の本質を少しでも体感いただければ幸いです。今号も、皆様の協力により発行することができ、感謝をいたします。「輝くひとみ」発行に携わっていただいた全ての方に心よりお礼を申し上げます。